（別紙4）　　平成　**26**　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470500564		
法人名	社会福祉法人正心会		
事業所名	グループホーム　やすらぎの家		
所在地	佐伯市蒲江大字蒲江浦4491番地5		
自己評価作成日	平成27年3月11日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4470500564-00&PrefCd=44&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212　チュリス古国府壱番館　1F
訪問調査日	平成27年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人間の基本的欲求である食べる事、排泄する事を中心に、体温表を用いて看護職員を中心に健康管理をしっかり行う事に力を入れている。3Kの心（感謝の心、謙虚の心、共感の心）を持って、五感を使ってよく観察を行い、報告・連絡・相談・確認を機能させ、早めの対応を心がけている。Aコープや道の駅が近いので散歩コースに取り入れ、できる限り外に出る機会を多く持つよう取り組んでいる。またフェンスの花を絶やさないようにし、花の水やりもご利用者に手伝って頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

山海の自然に抱かれた海岸沿いに立地する2階建て2ユニットの施設で、法人内の他事業所との協同において、個の利用者の目線を大切に、尊重と尊厳の息づく支援の重要性を支持しています。地域で、その人らしく豊かに暮らし続ける援助の有り方として、折々の思いを大切に受け入れ、寄り添える介護の実践をポイントに、体制づくりに繋ぐ様子が見受けられます。心身機能の維持と健全におけるリラックス出来る日常生活のケアにおいても、職員の気づきと情報の共有を根底に、意見交換・検討・協議活動によるチーム力の強化と、施設向上に努める姿勢が伺えます。個の職員の心のゆとりやプロ意識・資質の向上への働きかけに着目した施設づくりも視野に、運営に取り組んでいます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に理念を掲示し、仕事にとりかかる前に見るようにしている。勉強会等でも理念に触れ、確認し合うようにしている。	職員間における浸透と周知への取り組みの様子が伺えます。支援における振り返りの手段として、職員会議(法人全体)の議題のテーマに、理念に繋がる事例を取り入れた話し合いが持たれるなど、全職員間のチーム力の向上に着目しています。	理念を基盤とする前進的な施設づくりへの取り組みの姿勢が伺えます。管理者は、法人理念を紐解いて、現目標に繋ぐべく独自の施設理念の必要性についての意向も有するなど、一層の期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フェンスに花を絶やさない様にし、花の水やりを利用者と一緒に行い、地域の方が通られた時は、必ず挨拶をするよう徹底している。また、地区の清掃活動に職員が参加している。大正琴クラブや童謡の会の方の定期訪問や幼稚園児との交流も実施。	住民との交流の営みにおいて、顔見知り・挨拶の場づくりを大切に支持しており、ボランティアや保育園児等の受け入れ、地区行事の把握と参加も行われています。相互協力の体系づくりを踏まえた施設運営についての意向も示されています。	地域密着の意義を踏まえる中で、多様な情報発信や職員資源(知識・技術)の活用を介した連携への働きかけを視野に、地域間交流の有り方と相互のニーズにも視点を向けており、今後の運営に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域の方へ向けての貢献は不十分。 ホームだよりの活用の工夫が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催している。ホームだより等で事業所の取り組みを報告したり、職員募集のお知らせ、納涼盆踊りや敬老会の協力依頼を行っている。毎年地域の方の協力を頂き、盛大に盆踊りや敬老会を行う事ができている。	施設の状況・利用者の現状報告の発信や地域情報の受信を図りながら、質問や意見交換・協議などが行われています。情報交換の重要性を踏まえた上で、コミュニケーションを大切に、地域に開かれた施設づくりへの取り組みの意向が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告も数例あり。困難事例について保健師さんに相談する事も多い。生活保護の方もいるので、福祉事務所の方とも連絡を取る事が多い。	運営推進会議での交流や、個の利用者の特質を踏まえた必要事項(利用者の心身状況や生活設計など)の発信において、電話連絡や相談を通した相互間の連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は車椅子の安全ベルトや4点柵をしている利用者はいない。センサーやマットを床に敷き、転倒予防に努めている。	事務室には、一貫した支援活動の指針が掲示されており、個の利用者の言動や心身状態の変化について、職員の気づきと職員間の共有の大切さが示されており、互いにアドバイスし合える関係づくりの必要性を支持しています。	管理者より、研修(外・内部)への前進的な参加と、内部研修の取り組み方における工夫から得られる職員意欲の更なる向上への着目の姿勢が伺えます。年間研修計画(予定表)の作成に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	佐伯市主催の平成26年度高齢者虐待研修会(夜間)に管理者を含む8割の職員が参加し、学ぶ機会を持った。管理者は夜間時々ホーム内を抜き打ちで見回る様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用し、経済的に安心してくらせている利用者を通して学ぶ機会が持てた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書を基に、重度化した時の対応や、医療連携体制の実際等について詳しく説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催している。家族同志の交流の時間をとり、意見や要望をだしてもらうようにしている。	暮らしの伝達(ホームだより)や個人の活動報告の発信や、家族会や面会時を活かしたコミュニケーションづくりの取り組みの中で、利用者の尊重と家族の思い・意向の把握に向き合いながら、情報の共有とチーム支援に繋ぐ姿勢が見られます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議前に主任連絡会議を行い、伝達事項以外に意見交換する機会を設けている。	個の利用者の暮らしやすさと、施設運営における支援の向上として、プロとしての見識を深める中で、気づきと職員間のチームワークを大切に職員力の向上への取り組みと、勤務体制(時間帯等)見直しや変更、個別面談も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年度より勤続5年・10年の表彰を行っている。新たに資格(介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員等)を取得した者については資格手当の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	数年前より11月から12月にかけてOJTチェック表により自己評価と他者評価を行い仕事の振り返り行っている。月1回法人全体の職員会議において研修報告や外部講師による研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護職についてはH26年度介護施設等職員サポート会議に参加し、じょく瘡についての勉強や医療機関外来実務者との関係づくりを行う事ができた。認知症介護における同業者との交流の機会を作る事は今後の課題である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったら、必ず本人と面談し、心身の状態や思いを聞き状態の把握に努めると共に顔なじみになっておくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったら、必ず本人・家族に会い、家族の思いも聴くようにしている。何にどのように困っているのか状況の把握に努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人というより、家族が家では看ることができなくなり入居を希望するケースが多く、何度か遊びにきていただき慣れていただき入居のタイミングを図ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり敬い接するという考え方をみんなで共有していて、普段の生活の場面で色々な知恵ややり方を教えてもらえるように お手伝いの工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は、近況などをお伝えすると共に一緒にお茶を飲んでいただきゆっくりと過ごしていただくようにしている。月に1回利用者の様子を記した報告書を家族あてに送付をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別生活特性シートにより把握し、支援するよう努めている。	生活暦の把握(個別生活特性シート)と、利用者の思いの汲み取り・家族との相互の交流による振り返りより得られる気づきを大切に、個の利用者の思いに寄り添える暮らしの支援に取り組んでおり、散髪・自宅訪問・お墓参り等も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話す時間を作ったり、みんなで過ごす時間などは、利用者同士が良い関係でいれるように職員が調整役となり(タイミング良い関わり)支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方についても、時々職員が面会に行っている。また、居宅介護支援専門に訪問してもらったりし近況を把握するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いを日々の暮らしの中の会話などから把握するよう努めている。特に入浴時にゆっくり話を聴くよう心がけている。	利用者の思い・心身状況の変化への気づきと、職員間の周知を活かしたケアの実践を基本とする中で、利用者間の良好な関係づくりや、個の楽しみ事・意欲向上の援助に取り組む中で、より充実した日常の生活支援に努める姿勢が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に事前に本人や家族から個別生活特性シートで情報を得るようにしている。また、入居後は　センター方式のC-1-2(私の姿と気持ちシート)を使い職員が情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる事は何かということを把握し、暮らしの中にとりいれるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の申し送り時やカンファレンスの中で職員間の意見交換やケアの統一を図るようにしている。タイミングよく家族の来所時に話し合いをする事がまだ少ない。ケア会議、モニタリングを定期的に行っている。	担当制による活動記録の記述が営まれる中で、記録の重要性に着目しており、個の利用者の心身状況の把握と、向かい合う支援の統一性を貴重としています。職員間の意見交換・家族の思いを大切に計画の見直し(6ヶ月毎)に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方は職員のレベルにより差があるが、望ましい記録の書き方の見本を個々のケース記録の最初に貼ってレベルの底上げを図っている。24時間シートの活用もしながら個別対応の工夫を図る努力もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が一緒に泊まって過ごしたい方には、食事と布団の提供を行っている。本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には、柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区内でのお花見やドライブハイクなど四季折々の風景を感じていただくよう計画・実行をしている。また、地域の婦人会やボランティア、保育園、幼稚園、小学校などと交流の訪問の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、希望するかかりつけ医としている。受診の介助や薬とりは主に職員が行っている。必要時は往診を依頼し、来所していただくこともある	入所前のかかりつけ医受診を基本とし、遠方からの入所者の中には、利用者・家族の希望で協力医療機関に変更される方もいます。職員が受診介助の場合は、結果を家族に報告することで、家族、医療、事業所の連携を密にしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや排便チェック等必要時、看護職員へ報告し、薬の確認や受診の必要性の判断などを相談し、早めの対応に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院情報提供票を作成し、病院へ渡している。入院中の衣類の洗濯や、オムツの搬入も支援しているので、他の入居者の受診介助の際、病院スタッフと情報交換するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される段階で、管理者または、介護支援専門員が本人あるいは家族ならびにかかりつけ医と方針を話し合うようにしている。	重要事項説明書の中に、重度化及び終末期の対応指針を明記し、入所時に説明を行っています。重度化された場合の事業所の出来る対応として、医療への依存度が高くなると入院となる場合を伝えています。終末期については、その都度家族と話し合い最良の支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少しずつ勉強会を進めている。定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っていきたい。救急車への通報時については、個別ケースファイルに主治医などの情報を貼っておりその用紙に沿って対応するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、火災による昼間想定の避難訓練を消防署立会いのもと行った。近隣との連絡体制は得られている。	年1回消防署立会いのもと火災避難訓練を行っています。緊急通報装置の横に緊急連絡先と利用者にかける名札を用意しており、運営推進会議で避難場所での利用者の安全確保(見守り)について、地域の方へ具体的な協力要請を行っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前でのあからさまな誘導の声かけはしないように意識づけている。(職員間では誘導時の伝達は隠語などを使用している)	職員は、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保を常に念頭に置いて、ケアの実施に取り組んでいます。自尊心を傷つける言葉かけや態度がないか自身での確認、職員間での確認を行い、日々のケアの実践に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に応じて声かけし、本人が選択したり、決める場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、その日その時の本人の状態に合わせながら対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア時などを利用して行えている方もあるができていないことが多い。職員によっても気づき実践できている人もいればおろそかになっている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、調理のお手伝いなど　できることはしていただいている。	利用者の好みだけでなく苦手なものにも配慮したメニューを工夫し、3食とも、職員の手作りで提供しています。台所から、漂う香り、音等に五感を刺激し食欲増進と、食事中の話題(味付けの評価)が楽しい食事の雰囲気づくりの役割を担っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体温表に食事摂取量、水分摂取量を記録しチェックしている。また飲み込みの悪い方には主食をおかゆにしたり、おかず類はトロミ剤を用いたり、ブレンダーで加工して提供したりと状態に応じて食事形態を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりでできない方には、職員が行っている。ご自分でできる方には声かけをしているが時々口腔内の点検も必要なので、業務日誌に実施のサインを記入することで実施し忘れを防いでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレまで出来るだけ歩いて行ってもらうようにし、夜間のみポータブルトイレを使用してもらうようにしている。昼間も各利用者の動きを気に留めるようにし、出来る限りトイレの見守りをするように意識づけている。	チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレの誘導を原則としています。夜間のみオムツを使用している利用者もポータブルトイレへの誘導を行い、トイレでの排泄、更には排泄の自立を目標とした支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が2～3日ない方が数人いる時は、おやつにサツマイモを使ったりしている。トイレに行ったタイミングでウォシュレットで肛門刺激を試みるようにしている。天気の良い日はできるだけ散歩をするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少しずつではあるが、その日の健康状態などを考慮しながら、希望に応じれる範囲での入浴の支援を行っている。入浴を拒む方には職員が連携して言葉かけの工夫を行うなどして支援している。	個々の要望に応じた支援ができるよう、午前、午後とゆっくり時間を取って入浴支援を行っています。機械浴(リフト)の設置により、重度化した利用者の恐怖心を和らげ、安全性を確保するとともに、利用者の話をじっくりと聞く時間にしています。	個々の利用者の個性や習慣を把握し、記録やマニュアルを作成するよう検討しており、職員が共有し同じ支援が行えるよう期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神疾患のある方の眠剤等の内服のコントロールが難しい。出来るだけ日中の過ごし方の工夫を行いながら安眠につなげていくようケア会議や申し送りなどで意識付けを行うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に朝・昼・夕・眠剤に内服する薬の一覧表を作成。内容が変わった都度記入をし直し、伝達ノートにて周知徹底を図っている。又、処方内容書綴に全員の処方内容と効果・副作用が解るようにとじ　いつでも見れるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	つわの皮むきや干し柿つくり、雑巾縫いなど自分が得意事は、進んでしていただくような場面を作り感謝の言葉を伝えるようにしている。また、日々のモップがけや洗濯物畳みや食事の下ごしらえ等　力を発揮できるよう声かけをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時の思いを出来るだけ引き出し、叶えられるようチームで連携を図るようにしている。また、 近隣の方々との交流を目的とした散歩も取り入れている。	利用者が気分転換を図れるよう、庭で催す茶話会、プランターの水やり、近所に散歩にでかける等、戸外に出る事を支援しています。利用者の希望や状況等に応じて外出の機会を見つけて取り組んでいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自身でお金の管理が出来る方には、お金を所持していただき、病院の受診時などに支払いをしていただくなどしている。またお金の所持が出来ない方への配慮も怠らないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さん自ら電話をかけることはあまりないが遠方にいる家族から、決まった時間に毎日の様に電話があり会話ができる利用者もいる。名前程度が書ける方には、名前以外は代筆したり、絵手紙を書いたりの工夫がまだまだ必要である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にお花を玄関やソファーのテーブルに飾るようにしている。湿温度計をおいて温度、湿度の管理を実施。季節に応じて貼り絵や折り紙で鯉のぼりやクリスマス飾りを作ったり雛人形を飾ったりしている。また利用者様の誕生月には、誕生会を行っている。	自宅の延長として居心地よく過ごせるよう、さりげなく四季の花等を飾り季節感を採り入れています。ホールに適宜配置されたソファーは、家族との面会、利用者同士や職員との楽しい語らいの場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬場は炬燵が集まる場所になっている。また、ソファーもあるので、その時々に応じて過ごしやすい場所でくつろぎのスペースを確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御位牌や写真を居室に飾っている方もいる。クローゼットがかなりの収容量があるので利用者持込の物がない方も多い。御自身で持ち込まれているものには　何処に何が収納されているかを紙で書き貼り付けて収納物がわかるようにしている	入所時に利用者や家族と相談して、馴染みの物(好みの絵やカレンダー等)の配置に工夫し、居心地良く落ち着いて過ごせる居室づくりに取り組んでいます。日中も居室のドアは閉めており、プライバシーの確保に十分配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示もわかりやすい位置に変えたり、各居室には　目印となるものをつけたり、利用者の状態に応じて　少しずつ工夫をしていっている。		